

[最近のトピックス]

保険適用となった「歯科矯正用アンカースクリュー」について

中垣 晋

北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系歯科矯正学分野

マルチブラケット装置（エッジワイズ装置）は、Angle E. H. によって1928年に発表され、時代とともに新しい材料や治療技術の開発により治療の精度の向上と効率化が図られ、現在の矯正治療において欠くことのできない装置の一つとなっている。エッジワイズ装置を用いた治療や治療目標の立案において、最も重要な要素は固定源のコントロール、すなわち加强固定である。加强固定については、1940年代にTweedにより提唱された方法である（1）持続的な顎内固定（ナンスのホールディングアーチ等）、（2）間歇的な顎間固定（顎間ゴム）および（3）顎外固定（ヘッドギア）が日常の矯正臨床において用いられてきた。これらの方法はいずれも歯を介した間接的な固定であり、治療結果が患者のコンプライアンスによって左右されること、また患者の協力が得られてもある程度の固定源のロスを生じるといった問題があった。

近年、スケルタルアンカレッジが新たな固定源として注目され、日本においても平成24年7月に「歯科矯正用アンカースクリュー」として薬事承認され、また平成26年4月からは、保険診療においても使用が可能となり、今後の矯正臨床において益々重要な役割を担うことが考えられる。歯科矯正用アンカースクリューは持続的な直

接的歯列外固定であり、患者のコンプライアンスに左右されない予知性の高い治療目標の設定が可能となった。またそれ以外にも、従来の治療法では困難であった歯の移動も効果的に行えるようになった。

歯科矯正用アンカースクリューの成功率に関しては、植立部位の選択、歯根接触の影響、適正植立トルクなどのエビデンスは蓄積されてきている。しかし、論文のレビューによると依然として成功率は87%前後であり、この成功率をより向上させることが課題である。

当科においても以前から歯科矯正用アンカースクリューは治療のツールとして用いているが、この度保険導入されたことにより、顎変形症患者への使用が可能となり、より理想的な術前矯正治療を行うことが可能となった。

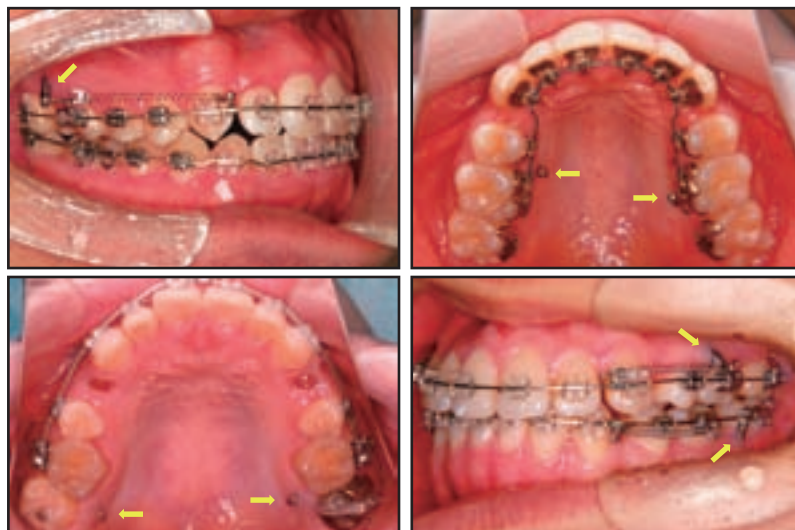


図. 歯科矯正用アンカースクリュー植立時の口腔内写真